

河川基金助成事業

「「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム」 における土砂災害啓発活動の推進」 報告書

助成番号：2019 - 6112 - 010

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム運営協議会

会長 伊藤 祐三

2019 年度

1. 事業概要

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム（以下、フィールドミュージアムという。）とは、中央アルプスの豊かな自然に育まれた駒ヶ根高原一帯の自然、人々が築きあげた文化や郷土を守る砂防施設によって進んだ土地利用、景観のビューポイントなどの地域資源全体を野外展示物と見立てた青空博物館であり、地域社会におけるこれらの資源と砂防との関わりについて、地域住民、小・中学生、観光客等が楽しく体験学習できる場を提供するものである。

2. 活動の目的

地域住民、小・中学生、観光客等が駒ヶ根高原の魅力を発見することにより、この地域への関心や愛着を深め、地域活性化の機会を創出するとともに、土砂災害対策をはじめとした地域の安全・安心のための防災力を向上させることを目的としている。

3. 活動状況

3.1 ガイドツアーの実施

3.1.1 開催日及び活動場所

冬期期間（12月から2月）を除いた2019年度中に、砂防フィールドミュージアムにて実施した。

3.1.2 内容

一般観光客、地元住民からの申し込みに応じて、ガイドツアーを実施した。

ガイドツアーでは、駒ヶ根高原の自然、地域の文化、砂防事業等の専門知識を身につけたボランティアガイドが、フィールドミュージアム周辺の現地案内を行っている。

本年度は、25団体・682人の参加があった。前年度比で団体数はほぼ同じ程度であり、参加人数は増加した。特に、今年度は、以前の参加者からの口コミをきっかけとした参加者や、リピーターが少なからずおり、研修施設兼観光施設として、継続して満足度の高いサービスが提供できていたことが伺える。また、地域外の人々の太田切川流域への理解を深めるとともに、活動地域の活性化に貢献することができたと思われる。



写真 3.1 ガイドツアーの様子

3.2 砂防講習会の実施

3.2.1 開催日及び活動場所

冬期期間（12月から2月）を除いた2019年度中に、砂防フィールドミュージアムにて実施した。

3.2.2 内容

一般観光客、地元住民等からの申し込みに応じて、砂防講習会を実施した。

砂防講習会では、土砂災害に関する基本的な知識（素因・誘因等）、砂防事業（砂防堰堤、床固工）、ソフト対策（土砂災害防止法の説明、自治体の防災訓練等の取り組みの紹介）、災害発生時の対応（土砂災害の前兆現象、避難方法）等を講義形式で解説することで、聴講者自身が土砂災害防災に関する知識を習得することはもとより、聴講者からの土砂災害防災に関する知識の伝播によって、各地域における地域防災力の向上を目指すものである。

2019年度は、長野県内外の5団体から申込みがあった。前年度比で団体数はほぼ同じ程度であり、参加人数は増加した。5団体の内訳は、福祉関係団体、自治会、防災協議会、消防団であった。参加者のうち、福祉関係団体や自治会は、有事の際に身を守るための正しい知識を求め、参加したと考えられる。防災協議会や消防団は、防災に関する更なる知識の向上や意見交換を目的としていたと考えられる。

砂防講習会における講義は、協議会から「防災アドバイザー」として委嘱されている長野県砂防ボランティア協会南信支部会員が講師を務めている。講義においては、上述の講義内容のほか、聴講団体の所在地における土砂災害警戒区域、特別警戒区域の指定状況、ハザードマップの活用方法など、聴講団体に合わせた講義を実施している。

平成25年度から正式に開始した本講習会は、毎年平均して5件程の団体から申込みがある。2019年度は、後述する「土砂災害防災研修会」も含めて合計163人が受講した。講義において長野県砂防ボランティア協会と連携することにより、過年度には他県の砂防ボランティア協会や期成同盟会から講習会の申し込みを受けており、今年度も防災協議会からの参加がある。本事業は防災・砂防関連団体の意見交換をはじめとした連携・協力を生み出す場としても機能していると考えられる。



写真 3.2 砂防講習会の様子

3.3 土砂災害防災研修会の開催

3.3.1 開催日及び活動場所

令和元年5月27日に砂防フィールドミュージアム内にて開催した。

3.3.2 内容

上述の「砂防研修会」のうち、駒ヶ根市、宮田村の自主防災組織リーダー（駒ヶ根市自主防災会長・宮田村区長）を対象として、より地域に密着した内容を取り込んだ「土砂災害防災研修会」を毎年5月頃に開催している。

土砂災害防災研修会では、はじめに上記の防災アドバイザーによる「土砂災害から命を守るために」と題した講義を行い（屋内研修）、その後、土砂移動の痕跡及び砂防施設の概要等についてボランティアガイドから説明を行った（屋外研修）。

本研修会は、毎年恒例の行事となっているが、駒ヶ根市、宮田村の自主防災組織リーダーは1年ごとに構成員が変わるため、この取り組みを継続的に実施することで、着実に両自治体内で土砂災害防災に関する知識の普及に資していると思慮される。



写真 3.3-1 屋外研修の様子



写真 3.3-2 屋外研修の様子

3.4 親子イベント「プレーパーク」の開催

3.4.1 開催日及び活動場所

令和元年9月15日に砂防フィールドミュージアムにて開催した。

3.4.2 内容

地域の親子連れを対象に、太田切川流域の自然の中で、子ども達が主体的に想像力を働かせながら遊ぶ「プレーパーク」を開催し、昨年度同様約300名の親子の参加があった。イベントには地域の環境、歴史・文化をよく知る、地元でリーダーシップを発揮している方々を招待し、川での遊びや木を使った工作、ロープによる遊びなどを子ども達と一緒にやって行い、太田切川の周辺がまさに地域交流・地域活性化の場となった。

子ども達が主体的に、自然の中で工夫して遊び、大人達から様々な知恵を吸収することができる場を提供するこの取り組みは、昨年同様、参加した親子連れから大変好評を博した。昨年からのリピーターも多く見られ、イベントの満足度の高さが伺えた。イベントの様子は地域の新聞記事にも取り上げられている。（長野日報 9月16日（月））



写真 3.4-1 募集用チラシ表



写真 3.4-2 募集用チラシ裏



写真 3.4-3 親子体験イベントの様子



写真 3.4-4 親子体験イベントの様子

3.5 観光イベント「もちつき&どんど焼き」の開催

3.5.1 開催日及び活動場所

令和2年2月2日に砂防フィールドミュージアムにて開催した。

3.5.2 内容

冬の観光オフシーズンでも太田切川流域に親しみ、砂防フィールドミュージアムの魅力を伝えられるような地域活性化イベントとして「もちつき&どんど焼き」を企画・実施した。地元アウトドア業者や地元工業高校の協力を得つつ、地元住民のご年配の方から子供まで、合わせて54人の参加者があり、大変好評を博した。

当イベントでは地元の文化・風習を若い世代に発信するため、季節行事の餅つきとどんど焼きを行った。また、地元の駒ヶ根工業高校の生徒から、課題研究で作成した、「ドラム缶ピザ焼き機」「ドラム缶風呂」を活用できる場を探しているとの情報を得て、当イベントで実現できるよう調整した。その結果として、地元アウトドア業者が当ドラム缶風呂を購入したいとの提案があった。ドラム缶風呂はアウトドア業者に販売し、売り上げは大規模な山火事と洪水により被害を受けているオーストラリアに寄付する方針だと伺っている。

当イベントでは太田切川流域を、大人から子どもへ知識の伝達の間、様々な主体が交流することによる地域活性化の場として活用できたと考えられる。参加者からは、次年度も是非実施してほしいとの声が多く伺え、親子イベントと同じく大変満足度の高いイベントが実施できたと考えられる。

また、前年度企画した「スノーシュー」が積雪不足により実施できなかった反省を活かして、気候条件に左右されにくいイベントを実施できた。



**太田切河川敷で
もちつき＆どんど焼きで
冬を楽しもう!**

令和2年 2月2日(日) 10:00~14:00 (予定)
場所/駒ヶ根キャンパスセンター

料金/大人(中学生以上)500円 こども無料

定員/100名 申込締切/1月27日

イベントスケジュール(予定)

9:30 受付開始
10:00 駒ヶ根キャンパスセンター広原前広場
もちつき 盆まき、どんど焼き
お汁粉のふるまひ、ドラム缶風呂ピザ
ドラム缶焼き芋、ドラム缶風呂体験
14:00 終了

お問い合わせ・申し込み先/
(一社) 駒ヶ根観光協会 駒ヶ根観光案内所
駒ヶ根市南塚759-447 駒ヶ根ファーム5F内
TEL.0265-81-7700 FAX.0265-81-7755

太田切河川敷で冬を楽しもう! (申し込み用紙)			
住所	TEL		
代表者名	大人	人	こども
			人

写真 3.5-1 募集用チラシ



写真 3.5-2 もちつきの様子



写真 3.5-3 ドラム缶風呂



写真 3.5-4 どんど焼きの様子

3.6 パンフレットの多言語標記化

3.6.1 実施日及び場所

昨年度に引き続き、中央アルプス国定公園園化に向けた旅行者の増加やインバウンド対策として、砂防フィールドミュージアムガイドマップの多言語化を行った。今年度は、中国語(繁体字)、韓国語の印刷を実施した。(多言語化ガイドマップのデータ作成は構成員からの負担金で実施し、今年度は中国語(繁体字・簡体字)、韓国語を翻訳した。)

3.6.2 内容

平成30年11月ごろ中央アルプス国定公園園化に関する情報提供(関係者限り)があり、フィールドミュージアムとしても、中央アルプスの国定公園園化によるブランド力や認知度の上昇によって増加が見込まれる外国人観光客に対し、流域やフィールドミュージアムの魅力を発信するための対策が必要となった。そこで、既存のガイドマップを多言語標記化し、外国人観光客に対しても地域の文化・自然資源等について認知していただく環境作りを行うこととした。多言語化の必要性がある英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語のうち、最も優先度が高いと考えられる英語は昨年度多言語標記化したため、今年度は

残りの言語の多言語翻訳を実施した。予算の都合で、中国語（簡体字）はガイドマップの印刷まで至らなかったため、次年度以降実施を検討していく



写真 3.6-1 ガイドマップ（中国語（繁体字）版）表 写真 3.6-2 ガイドマップ（中国語（繁体字）版）裏



写真 3.6-3 ガイドマップ（韓国語版）表

写真 3.6-4 ガイドマップ（韓国語版）裏

3.7 大型看板の修繕

3.7.1 実施日及び場所

令和2年2月に、砂防フィールドミュージアムで設置している大型の案内看板の修繕を行った。劣化が激しく、当初想定していたよりも多くの予算が必要であったため、構成団体の負担金にて修繕を実施した。

3.7.2 内容

砂防フィールドミュージアム運営協議会では、太田切川周辺で見られる土石流の形跡や巨石、人工池や床固工群などの「野外展示物」を見て回ることでできる散策モデルコースを整備している。

そのコースのルートや野外展示物の位置を示す大形看板が設置しているが、経年による劣化により、大形看板の倒壊による事故発生の可能性があった。また、前述のとおり中央アルプス国立公園化による National Park としてのブランド力や認知度の向上が見込まれ、国内旅行者はもちろん、現在でも上昇傾向にある外国人旅行者が更に増加することが予測されており、安全の確保は早急に対応すべき課題であった。そこで、看板の修繕として、既存の木製の骨組みから劣化しにくい金属製の骨組みへの交換を行った。景観にも配慮し、金属製の骨組みは木目調加工を行った。



写真 3.7-1 大形看板（修理前）



写真 3.7-2 大形看板（修理後）

3.8 エコバッグ・クリアファイルの作成

3.8.1 概要

ガイドツアーの安全性・利便性向上のためエコバッグとクリアファイルを作成した。

3.8.2 内容

砂防フィールドミュージアムのガイドツアーではガイドマップを配布しているが、鞆等を持っていない参加者は手が塞がってしまうということがあった。（もしくは、ガイドマップをすぐに捨ててしまうことがあった。）そこで、エコバッグ・クリアファイルを作成し、活動の安全性や利便性を高めることとした。

エコバッグ・クリアファイルには、砂防関係のパンフレットや地域の紹介パンフレットも同封し、土砂災害防止思想の発信や、地域観光の活性化等も図っている。

今後は砂防 FM として流域の魅力を発信するための印刷物（砂防 FM カードなど）を企画・検討し、当エコバッグに封入することで、流域の魅力をさらに発信できるように工夫していきたい。



写真 3.8-1 エコバッグ



写真 3.8-2 クリアファイル



写真 3.8-3 参加者への配布イメージ

3.9 体験プログラムについて

「体験プログラム」とは、体験的に環境や河川、防災などを学ぶことを趣旨とした砂防フィールドミュージアムのコンテンツの一つで、現在「岩石標本づくり体験プログラム」、「支障木の伐採体験プログラム」、「非常食づくり体験プログラム」の3つがある。これらは希望者からの申し込みにより実施することとしているが、2019年度は申し込みがなかった。

4. 活動の成果

砂防フィールドミュージアムは、防災教育施設兼観光施設として地域内外で広く認知されつつあることが伺える。近年、全国各地で水害や土砂災害が多発しており、防災への関心が高まりつつある中において、中

部圏や関東圏からアプローチでき、防災と観光を兼ねた取り組みとして、一般人の防災意識向上に貢献していくことが期待される。

その活動の中でも特に、平時に実施している「ガイドツアー」及び「砂防講習会」が、フィールドミュージアムの中心的な取り組みとなっている。これらの取り組みは土砂災害の危険性の啓発や地域防災意識の向上を推進することを目的としており、助成金を活用することで継続的に実施することができている。

平成26年度までは、サービスの拡充に向けてコンテンツの開発等、平成27年度は、それまでに作成したコンテンツや講習会用資料などを活用しながら継続的な組織運営に向けて体制を整えるための取り組み、平成28～29年度は、経年により劣化しつつある看板の修繕や、事務手続上必要となる備品（ノートパソコン）や消耗品の交換・補填を、助成金の主な用途としてきた。平成30年度は、引き続き経年劣化等への対応や事務上必要となる消耗品等の交換・補填を継続しつつ、当活動を、今までとは違った主体に働きかけるための広報活動を行った。具体的には、新イベントの企画・実施、外国人観光客等もターゲットとしたパンフレットや看板等の整備である。2019年度は、前年度の流れを踏襲し、参加者の満足度の高いイベントの企画・実施、外国人観光客への対応、既存の活動の質の向上を図った。その結果、太田切川流域が地域の交流の場・地域活性化の場として活用され、地域内外からの流域への理解を深め、愛着の形成を促せたと自負している。

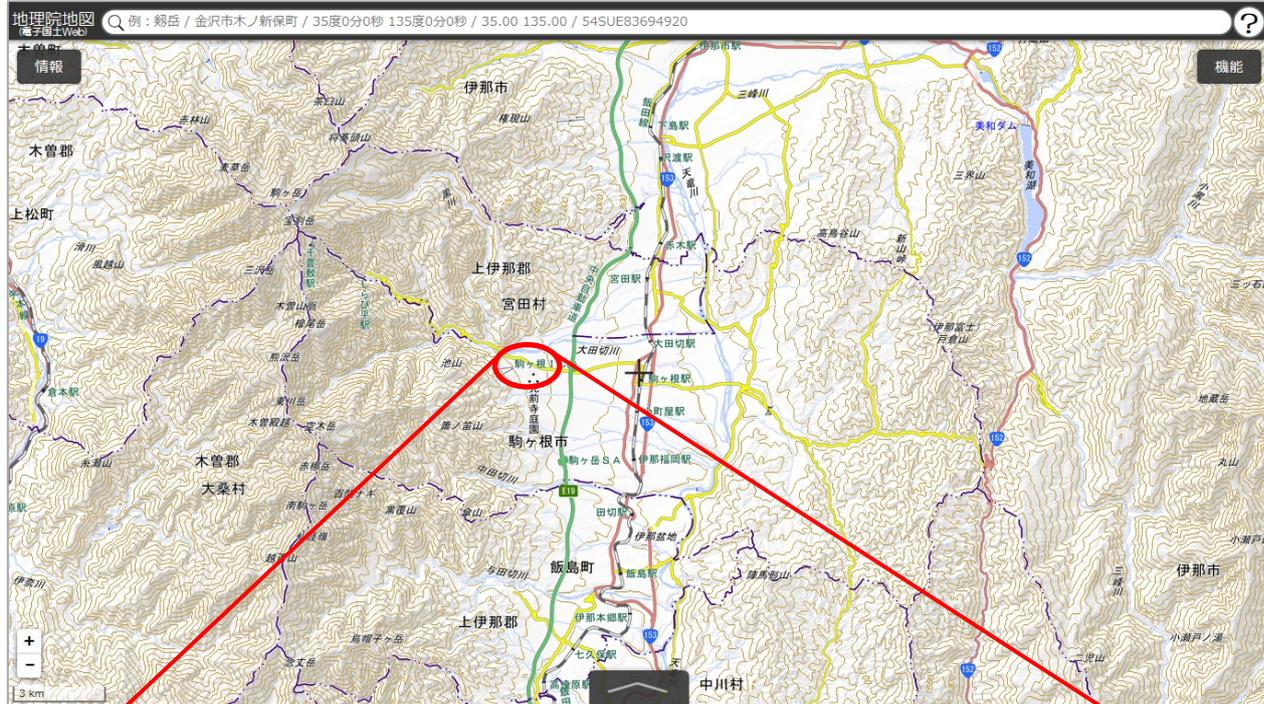
助成金に加え、当協議会構成員から捻出することとした負担金、関係団体からのサポート、地元からのボランティア等により、当該事業を将来に渡って持続させるための人員や資金確保が具体化し、活動の質が増してきていると同時に、地域内外での組織の認知度は着実に向上してきているものと思われる。

しかし、今後も災害や防災についてより広く啓発活動を続けていくためには、今後も国外を含めた流域外からの観光客に向けて当該活動を広く広報するとともに、地元にとっても、魅力ある取り組みを実施していかなければならない。また、事業を行う上で、消耗品等の事務経費は不可欠である。案内看板等の設備も管理していく必要があるが、経年劣化による老朽化が進んでおり、予算の許す限りで順次修繕を行っているのが現状である。中央アルプスの国立公園化による駒ヶ根高原への国内外からの観光客増加に向けて、引き続き広報活動にも注力していかななくてはならない。次年度以降、河川基金の助成を活用したハード面での整備や、今年度実施できなかったガイドマップ（中国語（簡体字））の印刷や、ボランティアガイドのユニフォームの整備等、ソフト面の充実を図りつつ、構成メンバー及び関係団体と協力し、人員や財源の確保に向けた体制の整備について検討・具体化していく。

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2019-6112-010	「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム」における土砂災害啓発活動の推進	駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム運営協議会会長 伊藤 祐三

主な実施箇所 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム（長野県駒ヶ根市及び下伊那郡宮田村）

助成事業の主な実施箇所



延べ参加人数	一般	約 1,199 名	スタッフ・事務局	21 名
マスコミ等の反響	新聞記事：親子イベント「プレーパーク」（長野日報 9月16日（月））			